

第三者評価結果

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<コメント> 保育所の理念、方針に基づき、地域性を踏まえて全体的計画を作成している。これまで全体的計画の読み合わせを定期的に行っていたが、保育所保育指針の改正に伴い、全体で検討の結果、書式を変更することにした。現在は書式変更の途中である。		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
<コメント> 子どもの身長に合わせた位置に、温度・湿度計を設置し、子どもが活動しやすいよう環境を整えている。その日の温度等は、保育日誌に記録している。保育室の玩具は、子どもたちが自由に取りやす位置に置き、口に入れても安心して遊ぶことができるよう、毎日消毒を行っている。また、消毒の際には破損がないか確認し、安全に遊ぶことができるよう配慮している。各クラスのトイレは、毎日職員が清掃し、清潔を保っている。年少クラスのトイレには、親しみの持てるキャラクターを貼る等して、楽しくトイレに行けるようにしている。保育士は複数担当制を取り、毎月勉強会を行い、質の向上に努めている。職員は「接遇チェックリスト」を用いて、自己の保育のあり方を振り返っている。		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<コメント> 全員の子どもの「個人別配慮」を作成し、一人ひとりの様子を園全体で把握している。また個別の「発達記録」も作成し、クラス担当だけでなく、園全体で共有して、次年度に引き継ぐことができるようにしている。各クラスとも複数担当制を取り、子どもの気持ちに寄り添った保育を提供している。課題のある子どもには、保育士が部屋の隅でじっくりと話を聴き、子どもが納得して活動に入ることができるよう見守っている。		
【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<コメント> 2歳児クラスでは、上履きをはくことに慣れる、午睡の際はパジャマに着替える等、保育士が手を貸しながら、生活習慣を身につけることができるよう関わっている。食事の際には、2歳児までは先割れスプーンを使用しているが、3歳児クラスになると箸の使い方を練習し、箸で食事ができるようにしている、また食後には歯磨きの習慣が身につくように、子どもの状態に合わせて無理なく進めている。4、5歳児クラスでは、子どもたちが当番活動を行い、体操の手本や配膳の手伝い等で協調性を育てている。		

【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p><コメント></p> <p>園の周りには田んぼや畑があり、自然に恵まれていることから、散歩の機会を多く取り入れ、自然との触れ合いを大切にしている。毎月、年齢や季節に合った制作に取り組み、作品を各クラスに飾っている。異年齢で交流ができるよう、3、4、5歳児は、年に数回「わくわくデー」を設定し、一緒に活動したり、会食したりしている。3、4、5歳児には交通安全指導を行い、交通ルールやマナーを学んでいる。5歳児クラスでは、野菜の苗を地域のお店に買いに出掛け、自分たちで植え付けや収穫を行っている。収穫した野菜は給食で調理してもらっている。買い物ごっこでは、実際に地域の方たちとの関わりを楽しんだり、運動会やクリスマス会等の行事には、地域の方たちも参加し、子どもたちと一緒に行事を楽しんでいる。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>保護者とは「育児日記」にて、家庭や園での様子を報告し、連絡を密にしている。現在、離乳食の子どもは完了期に入っているが、離乳食が始まるころには食材チェック表に記入してもらい、家庭で食べたことのある食材を提供している。現在、アレルギーのある子どもはいないが、保育士と栄養士が子どもの食べ具合や形状の確認を行い、離乳食が順調に進むよう配慮している。「個人別配慮」にて、保育士間で情報を共有し、保育に携わっている。月案の目標に沿い、子どもたちが安心して保育士との関係を築くことができるよう、抱っこをしたり、話しかけたりして情緒の安定を図っている。</p>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>各クラス、月案の目標に沿って、安定を図りつつ、成長に合わせた保育を行っている。生活の基本となる、食べる、歯磨きを行う、着替えをして午睡をする、自分でトイレに行く等、子どもたちが自分でできるよう保育している。保育士全体が「個人別配慮」の内容を共有し、子どもの発達に応じた関わりが持てるよう配慮している。給食時には調理員も子どもたちの中に入り、子どもたちは「お代りをください」と自分の気持ちを伝えている。土曜日は縦割り保育を行い、異年齢児と一緒に活動している。天気の良い日は自然と触れ合い、子どもたちは日々新しい発見を体験している。</p>		
【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>各クラス、月案の目標に沿って、成長に合わせた保育を行っている。自分のことはほぼ自分でできる時期であるため、集団の中で役割を持ったり、友だちと仲良く様々な遊びを展開して行けるよう、環境を設定している。園の行事には、地域の方たちを招待し、子どもたちと一緒に活動に参加してもらう機会を設けている。また、子どもたちの七夕や雛祭りの製作品を公共施設に展示し、地域の方たちに見てもらっている。数字やひらがなに興味を持つようになる等、幼児期の終りまでに育んでほしい姿を、保育士は意識しながら日々の保育にあたっている。</p>		

【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>現在、障害のある子どもは在園していない。以前、障害のある子どもが在園していたことがあり、子どもが落ち着いて過ごすための席決めや、担任が一人そばに付き添い一緒に活動する等、受け入れの体制は整えている。保育士が障害児の研修会等に参加し、全職員に内容を報告して共有している。</p>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>7:30～18:30までを長時間保育の基本としているが、保護者の帰りが遅くなり、迎えの時間が19:30くらいになることもある。8:30から17:00まではクラス毎の保育を行うが、それ以外の時間は、早番、遅番の職員が合同保育で子どもたちに関わっている。19:00を過ぎる長時間保育の子どもたちには、菓子と麦茶の補食を準備している。子どもたちの状態報告のために「早番ノート」「遅番ノート」を使い、全職員への申し送りを行っている。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>近くの小学校から運動会の招待があり、子どもたちが参加している。年2～3回、小学校との連絡会があり、園長や担任が参加して、情報交換を行っている。就学のための聞き取りシート、園生活の様子等、就学に向けた資料を小学校に提出している。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>朝の視診により、子供の顔色や様子、傷の有無等を確認している。また、保護者からその日の子どもの健康状態を確認している。感染症の状況や健康状態は、毎朝のミーティングや月2回の連絡会で、職員全員に周知している。園内に乳幼児突然死症候群(SIDS)のポスターを掲示し、保護者や地域の方たちに情報を提供している。午睡の時間には、15分おきに呼吸チェックを行い、記録に残している。新入園児は、環境の変化に順応できるよう「慣らし保育」を行い、短い時間から徐々に慣れてもらうようにしている。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	b
<p><コメント></p> <p>年2回、内科、歯科の嘱託医による検診を行っている。検診の結果は、全職員が把握するようにしている。内科検診の結果は、0、1歳児は「育児日記」で、2、3、4、5歳児は毎日の「出席シール帳」に記入して、保護者に報告している。歯科検診の結果は、保護者に手紙で報告している。</p>		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>アレルギー疾患のある子どもは、現在はいないが、アレルギーの把握から取り組みまでをフローチャート化し、除去食に取り組む体制を整えている。除去食は、他の子どもと食器の色を変え、黄色にしている。対象児の食事には、配膳から片付けまで保育士が付き添うこととしている。アレルギー対応の研修会に保育士が参加し、内部研修で他の職員に内容を周知している。</p>		

A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	a
<コメント> 離乳食の子どもには、食材カット表により、その子どもに応じた大きさの食材で対応している。季節の食材や地域の特産品を使った献立を、多く取り入れている。また、行事食により日本の文化を知り、楽しく食べることができる工夫をしている。給食はおやつを含め、厨房での手作りで提供している。それぞれのクラスでは子どもたちがお代りをして完食している。特に野菜をよく食べ、保護者が家では野菜を食べないが、園でお代りをして食べている姿に驚いている。毎月配布する「食育だより」では、季節の行事食や、お勧めレシピ等が保護者に人気がある。年長クラスはクッキングを行い、カレーを作ったり、収穫したトウモロコシの皮むきをしたり、食べることの楽しみを体験している。訪問調査時、年少クラスでは、保育士が「食べられるかな～」「食べられたね～、えらかったね～」等、一人ひとりに声を掛けていた。子どもたちは嬉しそうに空のお皿を見せていた。		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
<コメント> 園の玄関に昼食とおやつのサンプルを展示し、保護者が今日、子どもたちがどんなものを食べているか確認できるようにしている。毎年、年齢毎に食育年間計画を立案し、「楽しく食べて大きくなる」を目標に、食の大切さを知る、収穫した野菜を食べる、食事マナーを守る等、計画に沿った食事を提供している。保護者にも、朝食を食べて登園しましょう、夏場はこまめに水分を補給しましょう等、働き掛けを行っている。		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
【A17】	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> 0、1歳児は毎日「育児日記」を使用して、園と家庭とで子どもの様子を伝え合っている。送迎時には、保護者との情報交換を行っている。行事等のお知らせは手紙を配布したり、保育室前のホワイトボードに連絡事項等を書き入れている。年1回、クラス懇談会や個別面談を行い、家庭での様子を確認したり、相談を受けたりしている。保育参加や運動会、生活発表会等を通し、子どもの成長を保護者と共有する場を設けている。		
A-2-(2) 保護者等の支援		
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<コメント> 登降園時に保護者とコミュニケーションを多く取り、相談しやすい体制を整えている。相談担当者と責任者を明確にし、いつでも意見や要望、相談ができるようにしている。最近家でチックがみられることがあるが保育園ではどうか、今までなかったのに夜おねしょをすることがあるが午睡の時はどうか等、保護者からの相談を受けている。また、保育所の機能を活かし、園庭開放や一時保育の受け入れ等を行い、地域の子育て家庭への支援を行っている。		

【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>虐待の疑いがみられる場合は、日付や様子等を写真や記録に残している。虐待を発見した担当保育士は主任や園長に報告し、市へ連絡を取り、保護者と市のケースワーカーが話し合う仕組みを決めているが、これまで市へ報告したケースはない。専門の講師を招き、職員研修の機会を持ち、虐待の早期発見及び対処の大切さを学び、意識の向上に努めている。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<p><コメント></p> <p>年1回、「保育士の自己評価」に基づき、保育理念や発達障害児の対応、保護者支援、他機関との連携等の内容について、10枚にわたる自己評価と自己課題票を用いて、振り返りを行っている。また、年1回、園長と職員の面談を行い、日ごろの保育を振り返り、保育の改善や専門性の向上につなげている。職員全員が参加する勉強会において、「接遇チェックリスト」により、望ましい言動等の話し合いを行っている。</p>		